

TTC提案山行実施記録表

2011年08月02日 報告者：三村 (1/3)

山行名	TTC15周年記念北アルプス後立山リレ登山 Eパーティ 遠見尾根～五龍岳(2814m)～八峰レット～鹿島槍岳(2889m)～爺が岳～柏原新道 [長野・富山県]									
実施月日	H23年7月23日(土)～27日(水) [4泊5日] 往復マイカ2台利用									
天候/参加人員	天候実行欄に記載 レベル：★★★ 参加人員(申込：8人/実行：7人 [男2/女5])									
パーティスタッフ	CL/計画：、SL：、会計：、救護：、氏名削除									
参加メンバー	氏名削除 (キレット小屋(3泊目)以降、Aパーティの1名同行) *Eパーティメンバーの平均年齢：約68歳									
費用	約50,500円(交通費¥11,118+宿泊代¥35,290+弁当・温泉その他¥3,682+カパ金¥410) 内訳 ①マイカ交通費：マイカ使用料(@10x600kmx2台)¥12,000、ドライブ謝礼(@5,000x2日x2台)¥20,000、ガソリン代(@145x600/8x2台)¥21,750、高速道路料金(相模湖-豊科；往路休日割@2050x2+帰路平日日中割@3400x2)¥10,900/total¥64,650/一人あたり(Eメンバー(2/15)¥8,620/佐藤(1/15)¥4,310、②カパ代(扇沢出合-薬師の湯(9人乗1台)¥6,020+マイカ回収(薬師の湯-神城)¥7,080/total¥13,100/一人あたり(1/8)@1,638、③遠見尾根レキヤビン@860、④宿泊費(ペンション樹里家@3,190+五龍山荘@9,000+キレット小屋@9,100+種池山荘@9,000)@35,290、⑤昼食弁当(ペンション@315+五龍山荘@1,100+キレット小屋¥1,200)@2,615、⑥薬師の湯(@100割引券)@500、⑦雑費(カパソフバ ¥750+¥500)+通信費¥1,000+その他雑費¥994)¥3244/7人=@463、費用合計(Eパーティ①～⑦)@49,982/佐藤清(カ)@25,748) 集金(Eパーティメンバー@50,500x7+佐藤清@25,000)¥378,500-費用(@49,982x7+@25,748)¥375,625=残金¥2,875									
カパ金	¥2,875									
日程(行程)	7/24(アルプス平→五龍山荘)		7/25(五龍山荘→キレット小屋)		7/26(キレット小屋→種池山荘)		7/27(種池山荘→扇沢)		全行程	
累積標高差	登り1100m/下り100m、歩行距離6km		登り500m/下り520m、歩行距離5km		登り750m/下り800m、歩行距離7km		登り0m/下り1150m、歩行距離4km		登り2250m/下り2450m、歩行距離21km	
行動/歩行時間	行動時間	歩行時間	行動時間	歩行時間	行動時間	歩行時間	行動時間	歩行時間	行動時間	歩行時間
ガトブック上	—	5:30	—	4:25	—	6:40	—	3:05	—	19:40
計画	8:00	6:15	8:30	5:20	7:00*	4:50*	8:05*	6:50*	31:35	23:15
実行(今回)	6:50	4:59	8:55	5:49	8:06	6:31	2:33	2:21	26:24	19:40
過去実績(1996or2006)	8:30	5:30	7:00	5:03	10:30	5:51	3:30/2:35	2:45/2:16	28:35	18:40
実行コースタイム記録 *計画では7/26はキレット小屋→冷池山荘まで										
◆7/23(土) 天候：晴/曇(登山口の五龍遠見スキー場至近のペンションに前泊/歩行なし) 本厚木or茅ヶ崎== (各所レックアップ) ==相模湖IC==談合坂SA==梓川ISA==豊科IC==白馬五龍スキー場(ペンション樹里家；泊) 12:00or11:30 13:32 13:40/13:50 15:18/15:53 15:57 17:00着 /夕食18:00～										
◆7/24(日) 天候：晴のちガス(遠見尾根を登り五龍山荘泊；歩数；約15,800歩) 起床5:10~/朝食6:20~ ¥860 (1530m) 0:25 0:18 0:22 (1845m) 0:28(2007m) 0:25 0:43 (昼食) 0:34 0:23 ペンション→レキヤビン駅==アルプス平駅→地蔵/頭→見返り坂→一ノ背髪→小遠見山→中遠見→大遠見→西遠見標識→ 7:10 7:23/7:30 7:40/7:55 8:20/8:25 8:43 9:05/9:15 9:43/9:50 10:15/10:25 11:08/11:43 12:17/12:27 0:30 0:46 0:05 2266m西遠見山のピーク→2335mクサリ場上→白岳(遠見尾根分岐)→五龍山荘(泊) 夕食17:00~/就寝19:40～ 12:50 13:20/13:30 14:16/14:25 14:30到着										
◆7/25(月) 天候：晴のちガス一時小雨(起床～4:30/朝食5:30～；五龍岳(Aパーティバトタッチ)～八峰縦走～キレット小屋泊) 0:52 0:26 (Aパーティ到着9:52) 1:05(昼食) 1:17 0:13 0:27 0:29 五龍山荘→五龍岳の肩→五龍岳頂上→G4→ハシゴ場→北尾根/頭→口ノ沢の科尔→キレット小屋(泊) 6:14 7:06/7:14 7:40/10:08 11:13/11:33 12:50 13:03 13:30/13:40 15:09到着										
◆7/26(火) 天候：晴のちガス一時雨(起床～4:30/朝食5:00～；八峰レット～鹿島槍岳～爺が岳～種池山荘泊；約24,000歩) 0:28 0:50 0:38 空身0:09 0:06 0:42 (ゴビレバ) 0:41 0:53 (昼食) 0:16 0:48 キレット小屋→八峰レット→(小休止)→鹿島槍吊尾根→北峰→吊尾根→鹿島槍南峰→布引山→冷池山荘→冷乗越→ 5:48 6:10 7:00/7:07 7:45/7:51 8:00/8:10 8:16/8:21 9:03/9:43 10:24/10:33 11:26/12:02 12:18 0:22 0:38 爺が岳中央峰→南峰→種池山荘(泊) 夕食17:00~/就寝～20:00 13:26/13:44 14:06/14:16 14:54到着										
◆7/27(水) 天候：雨のち曇(起床～4:30/朝食5:00～；柏原新道を下山、温泉入浴後帰宅) 0:30 0:47 0:12 0:52 ジャボタ(温泉入浴/マイカ回収) (昼食：手打ちカ)) 種池山荘→アザミ沢→駅見岬→第1ケルン→柏原新道登山口==薬師の湯==松川村(カバ処つばくろ)==道の駅松川== 6:02 6:32/6:38 7:25/7:31 7:43 8:35/8:40 8:32/9:50/11:17 11:41/12:33 12:57/13:16 豊科IC==諏訪湖SA==談合坂SA==八王子IC==本厚木愛甲 4日間の総行動時間：26:24/総歩行時間：19:40 13:31 13:58/14:19 15:37/15:50 16:25 18:00帰着 マイカ総走行距離(本厚木から)：556km										

TTC 創立 15 周年記念行事にふさわしいイベントとして、メンバー全員が参加可能で、全員が力を合わせて成し遂げるビッグ山行として、北アルプス後立山山域（白馬岳～五龍岳～鹿島槍岳～針ノ木峠）での 5 コースに分けてのトレイル登山を提案した。幸い多くのメンバーに賛同頂き、7 コース/31 名のメンバーにエントリー頂いたが、最終的に 6 パーティ/28 名にて、ほぼ計画どおり実施することが出来た。実施時期が梅雨明けギリギリの 7/23 スタートの設定になったため、天候が心配されたが、早々に梅雨明けし、迷走する台風 6 号の影響はあったがまずまずの天候のもと事故もなく無事完了できたのは何よりだ。

当 E パーティは、遠見尾根～五龍岳～八峰～鹿島槍～爺が岳～柏原新道の後立山の核心部の厳しい岩稜コースを山中 3 泊 4 日のゆったり日程で縦走する計画で立案したところ、8 名のメンバーが手を挙げた。その後、メンバーから厚木早朝発ではなく、麓に前泊する計画にしてほしいとの要望があり、そのように計画変更をしたところ、それならばと 2 名の追加申込があり、仕事の関係で参加困難、テント泊で行きたい、体力的に自信なしとの理由で 3 名がキャンセルし、最終的に 7 名（男 2/女 5）のメンバーになった。7 名のメンバーは平均年齢 68 歳（最高 71 歳/最年少 60 歳）と厳しい岩稜縦走をする登山隊としてはいささか高齢ではあるが、4 名の百名山完登者に 15 年前白馬岳から柏原新道までの後立山連峰中心部を 4 泊 5 日で縦走した際の 3 名のメンバーを含む何とも頼もしい強者揃いの A パーティが編成できた。

◆7/23(土)：遠見尾根登山口(白馬遠見レキヤビン山麓駅)近くのペンションに前泊

茅ヶ崎始発の RAV4 と厚木始発の PRIUS の 2 台のメンバーで正午頃出発し、談合坂 SA で待ち合わせ。一路白馬五龍スキー場近くのペンション樹里家に向かう。観光協会の紹介で予約したペンションは築 20 年のいささか貫禄のある宿。中型バスでやってきた大阪のハイキングクラブのメンバーが 20 名と同宿となり、少々にぎやかな一夜だった。

◆7/24(日)：遠見尾根を登り五龍山荘へ

車をペンションの庭に預け、レキヤビン駅まで 200m 歩き、7:30am から運行開始のゴンドラに乗って標高 1530m のアルプス平へ。雲の中から五龍岳が姿を見せ、アルプス平から地蔵の頭までの斜面は高山植物園として、コマクサやヒマヤン青苔、ヤギラン、シメツク、ウラボシドリ、ミヤマバイ、ニコウサグ、コホウリ等が今を盛りに咲き誇っている。花々を愛でながら、公園内の木道をゆっくり登り、最初のピーク地蔵の頭で一服。ガスが懸かり眺望の利かない樹林帯を凌いで、小遠見山、中遠見山と徐々に高度を稼ぐ。水たまりを少し大きくした程度の池の上に大遠見の標識、西遠見の標識は雪田の広がる広場にあり、どちらもピーク上ではない。西遠見の標識から標高 2268m の西遠見山まで 20 分強。また、大遠見の標識があるあたりから低灌木林となり、高山植物が目立つようになる。西遠見山から一端下り、そこから主稜線の白岳まで標高差約 300m の急峻な岩場とお花畑を見ながらの登りが続く。白岳のピークの先で縦走路にたどり着き最後の休憩。ここで、全パーティ CL に五龍山荘到着のメールを試みたが、電波状態が悪く、なかなか旨くメールが送信できない。14:30pm 予定より 1 時間早く全員元気に五龍山荘に到着。案内された部屋は、上下 2 段の下側で、7 人で寝るには十分の広さだ。5:00pm からの夕飯は定番のカレーライスで、お替わり自由で、美味しいと 2 杯食べたメンバーが多かった。飲料水はフリー、トイレはペーパーも一緒に捨てるポット和式。建物が古いせいかわずし臭うが概ね清潔。山荘に docomo 携帯のアンテナがあるらしく、山荘玄関付近は docomo は通話可。au はたまにまぐれで繋がる程度。遠見尾根の登りは終日ガスの中であったが、夕方霧が晴れ、五龍岳が姿を現す。ここからの五龍岳はお世辞にもかっこいいとは言いがたい。信州側東斜面には大きな雪渓、遠見尾根が長く連なって雲中に消える。夜中、激しい雨。

◆7/25(月)：五龍岳頂上で A パーティから夕飯を受け取り八峰を越えてレット小屋へ

朝食を食べ終わる頃雨が止み、ガスも晴れてみるみる眺望が利くようになった。男性陣は朝食前に 2 台のカセットを使ってお湯を沸かしてメンバー全員のヘルメットへ給湯。今日は五龍岳頂上で A パーティの到着を待って夕飯を受け取り、レット小屋まで運ぶ、核心部の縦走の朝。ストレッチ体操をしながら五龍岳の稜線を眺めていると否が応でも気分が高揚してくる。

6:15am 山荘を出発し五龍岳山頂に向かう。A パーティの五龍岳頂上到着は 10:00am 前後の予定であるので、このまま行くと五龍岳頂上で 2 時間以上の待ち時間があるが、これも一興。頂上で気長に到着を待つことにする。

山荘からおおよそ 30 分ほど登ると、登山道は黒部側の長いカレ場とハヤツが広がる急峻な斜面をトラバースするようになる。丁度今から 9 年前、厚木市の岳友 KT さんが滑落死した現場に間違いがない。KT さんと面識があるのは 4 名のみではあるが、全員黒部の谷の方を向いて 1 分間の黙祷を捧げ、故人のご冥福と E パーティのこの先の安全を祈った。

7:40am 五龍岳頂上到着。A パーティ到着予定まで 2 時間以上時間がある。三角点のある黒部側ピークに行き行って記念写真を撮影した後は、A パーティが登ってくる登山道の通じている手前のピークで待つことにした。ガスがかかったり晴れたり空模様。南にはこれから越える八峰の岩峰群とその先にどっかり聳える鹿島槍の双耳峰。北は、白岳・大黒岳と続く稜線の先に唐松岳。さらにその上に天狗尾根と白馬鑪岳が少し霞んで見える。西側には毛勝三山とその左に剣岳の勇姿。頂上は雲の中からはなかなか姿を現さなかったが、長大な長治郎雪渓と三の窓雪渓を従えるその姿はいつ見ても感動ものである。気温 20℃前後で風もなく快適そのもの。大展望とおしゃべりを飽きるまで楽しんでいると、突然ガスで視界の利かない中、バリバリという至近を音が飛ぶ音。この時、①遠見尾根を下山中の 63 歳女性が 5m 滑落・負傷して救助されたようだ。なお、この週後立山山域で発生した山岳遭難事故は、前記も含めて以下の 4 件：②7/27 種池山荘で 71 歳男性が脳梗塞で倒れヘリコプター救助、③7/28 唐松から五龍に向かう 32 歳男性が大黒岳の岩場から 100m 滑落死亡、④7/31 白馬鑪温泉小屋から猿倉に下山中の 33 歳男性がスリップして転倒・負傷。①は D と E が、②は A と E が、③は A と D が、④は B1 と B2 が通過した場所だ。

こちらに向かっている A パーティとコンタクトをとろうと、携帯電話、メール、無線機を使って幾度も連絡を試みたが反応なし。仕方がないので、9:00am 過ぎより登山道がよく見渡せる場所に CL が陣取り、目視で探すことにした。眼下には頂上を目指して登ってくる 3~4 組のパーティが見える。多分 A パーティはその内のどれかに違いない。頂上まで 20 数分の五龍の肩までは何とか私の声が届きそう。9:20am 頃最初に声をかけたパーティは違った。続いて 9:30am 頃黒いウェアを着た一人の男性が肩

に到着した。STさ〜んと声をかけたら、SKで〜すと答えが返ってきた。本隊の3名は5分ほど遅れているという。そこから頂上まで岩場の急登20分強だから、そこで後続の本隊を待つように案内。やがて、SLを先頭にした本隊3名が現れた。それから先はEパティ全員でガンバレ！コールとエールの交換が頂上到着までの20数分間続く。9:52am、SL、紅一点のWEサ、SKサ、CLの順に頂上到着。歓声の嵐と再会の喜びの握手々々。五龍岳頂上ピークに戻り、AからEへのタスキの引き渡しの儀式に続いて、横断幕を広げての記念撮影を済ませる。2時間以上頂上でstand-byしていたEパティはAパティに先行して出発させてもらった。

五龍岳から八峰に向かう登山路は、いきなり岩場の急降下で、ケツ場も多い。危険な岩場を歩く本日は、岩場に弱いKEサをCLの後ろに付け、その後を超ベテランのTHサがサポートする万全の態勢を敷き、間が空かないよう目配せしながら安全第一でゆっくり歩くように心がけた。G4頂上付近の岩場の窪地で昼食を摂っているとAパティの姿が見えた。その後何度かAパティがEパティに追い付きそうになることがあったが、先輩ムバに配慮してか、AパティはEパティの前に出ることはなく、キレット小屋までEパティに花をもたせくれた。八峰に多いケツ場はすでに咲き終わり、岩場に目立つキョウチンやシキリばかりでイギキョウは見かけなかった。途中、大粒の雨が降り出し、あわてて雨具を着込むムンもあったが、10分程度降られただけで、その後は雨具を脱いで歩いた。八峰の中ほどの最低鞍部口ノ沢のコルから、三段ケツと呼ばれる標高差100m強のキツ岩場を最後の力を振り絞ってよじ登ってから、小ピークをいくつも越え、あと小ピークを一つ越えれば鹿島槍北壁に到着というところで、岩峰に挟まれたコルにひっそりとたたずむキレット小屋がヒョコリと現れた。10分ほど遅れて到着したAパティとお疲れ様の握手。今夜のキレット小屋は80人の定員に30名弱。ピカピカに磨かれた床、乾燥室のサービス、トイレも広くてきれい、貴重なのは飲料水もフリー、夕食はボリュームたっぷりのハンバーグ。いつもそうだが、今回宿泊した3つの小屋の中で一番居心地がよい。

◆7/26(月)：八峰キレットを越え、鹿島槍岳・爺が岳を縦走して種池山荘へ

朝まで降り続いていた雨も日の出を迎えるころには止み、剣岳も姿を見せる。新越山荘を目指すAパティのうち、本日からEパティに合流するSKさんを除いた3名は、3:30am頃起床し、自炊室でウギ弁当の朝食を食べ、明るくなり始めた4:30am頃出発していった。なお、タスキは昨夜のうちにAパティに再度託しておいた。Eパティ7名+1名は、ゆったりと朝食を済ませてから満を持しての出発。八峰キレットまでは高度感のあるケツとバグ場の連続。朝一で身体が慣れていないこともあり、最高の緊張感のもとにスタンスとホールドを確かめながら一歩づつゆっくり進む。狭いキレットを挟む岩壁は朝日を浴びて眩しく光る。キレットと名のつけられた多くの難所の中で、八峰が最もその名にふさわしく、主稜線にサカで真っ二つに割れ目を入れた形状はまさにキレット中のキレットだ。15年前UKサが「ここを下りるの」と言って下ろうとした錆びついた捨てバグもまだ残置されたまま健在だった。キレットの底に降り立ち、鹿島槍側に取り付いても、鉄製の橋、ケツ場に続いて、胸を突く岩場の急登が待ち構えており気が抜けない。鹿島槍北峰の稜線まで登ると、昨日たどってきた五龍岳から八峰の岩峰が一望のもとに見渡せた。吊尾根稜線にザックをデポし、空身で10分足らずの鹿島槍北峰をピストンしてから、鹿島槍岳南峰へ。ここでゴビショップ 開店。香り立つドリップコーヒーと鎌倉紅谷のクミキラムケ味の味に、至福のひとつ時を過ごした。この山頂ご自慢の剣岳・立山の大展望はあいにくのガスに阻まれて得られなかったことが残念だった・・・

頂上に空身で登ってきた若者1人。新越山荘でアルバイトをしており、非番の今日、ここまで登ってきたという。この若者の情報によれば、本日種池山荘を貸切予約していた中学生200名の団体は急遽キャンセルになり、種池山荘はガラ状態だという。いい話を聞きつけた。天候は下り坂、今日中に予約していた冷池山荘から、当初計画での宿泊先である約3時間先の種池山荘まで頑張ることを提案し、ムバ全員の賛同を得る。そうと決まれば先を急ごう！布引山まで下る途中で、3グループのライオン(ムス羽、ムス4羽)に出会った。この時期、ほとんどのライオンは子連れのはずなのに雛を一羽もつれていなかったのが気になった。例年大量の残雪がある冷池のテオ場の上の雪田には、申し訳程度の雪しか残っていなかったが、その代わりに、シキバイン、チゲルマ、コバケイウ、アツカザク等、多くの花々が今を盛りに咲き誇っていた。途中で出会った冷池山荘の女性スタッフ2名にも先行して宿泊先変更手続きをしていただくようお願いした。冷池山荘の受付ではすでに話が通じていて快く対応していただいた。小雨がパラついてきたので、山荘の自炊スペースを借りて待望のウギ弁当に舌づつみ。ここから種池山荘までの約3時間の縦走路は3峰からなる爺が岳のピークの黒部側をトラバースする。したがって、爺が岳を意識し、相当根性のあるパティしか3峰の頂上は踏まない。先を急ぐAパティも最高峰の中央峰の頂上はおそらく踏んでいないだろう。そこでEパティはあえて3峰の頂上を踏むことにした。しかし北峰頂上に通じる登山道は植生保護のため通行禁止の立て札があったのでとり止め、中央峰と南峰の頂上を踏んだ。誰もいない中央峰頂上では、ご褒美としてMSサがここまで大事に持ってきたグレープフルーツを8等分して喜びを分かち合った。辿りついた種池山荘も少々狭い部屋であったが個室でゆったりくつろげた。和食の夕飯でよかったが、ご飯が少々硬かったのが不評だった。飲料水が一人1リットルの割り当てだったのが意外だった。種池畔には水芭蕉とキヌカサリが咲き、水中にはサシユウオの卵らしきものが浮かんでいた。携帯電話の電波状態は今までの山小屋では最も良好。Aパティはやはり予定通りこの先2.5時間の新越山荘まで行ったようだ。

◆7/27(水)：柏原新道を下山。薬師の湯で汗を流し、信州そばで空腹を満たしたのち帰宅

未明まで雨。出発する頃には上がって空も明るくなった。今朝は高曇りで、針ノ木岳と蓮華岳を従えた針ノ木大雪渓や立山の南に連なる残雪を多く残す山々、そして鹿島槍岳の双耳峰もよく見渡せた。山荘でタクを予約し、柏原新道を快調に下る。手入れが行き届いていて実に歩きやすい道だ。途中、Aパティが歩いているはずの鳴沢岳や赤沢岳がよく見渡せた。タクで乗り付けた朝の大町温泉薬師の湯はガラサキで、ゆっくりと4日間の汗と疲れを流すことができた。ドライブのOMサとCLの2名でタクに乗り、五龍遠見レキペン駅そばのペンションまでマカの回収に行った。庭から車を道路に乗り出した瞬間、OMサがハンドルを握るRAV4が側溝に脱輪し、助手席側前輪のホイール2箇所とタイヤ側面に傷をつけてしまった。走行に支障はないものと判断し、ムバの待つ薬師の湯に向かい、紹介してもらった松川村の蕎麦処つばくろでお腹を満たし、帰路に就いた。【自損事故についてはキレット報告書にて別途報告】。

◆おわりに：平均年齢68歳のシニアパティであったが、15年前の記録に遜色のないウイムを残し、TTCシニアムバの底力のすごさをあらためて実証した。マカの自損事故を起こしてしまい、その処理の仕方を含め、CLとして至らぬ点が多々あったと猛省している。